http://hokkaido-poland.com/pole.html

POLE

北海道ポーランド文化協会会誌「ポーレ」
第３２号　　1995,11,9

発行
北海道ポーランド文化協会
〒060 札幌市中央区南2西2
河合楽器製作所北海道支社内
電話 011-231-8661
FAX 011-221-4936

北海道ポーランド文化協会 第二十五回例会 美術講演会

「ポーランド・クラクフのチャルトルイスキ美術館とレオナルド・ダ・ヴィンチの作品について」

［講師］北海学園大学教授　國田　祐作氏

［日時］平成七年一一月二五日(土)　午後二時～四時

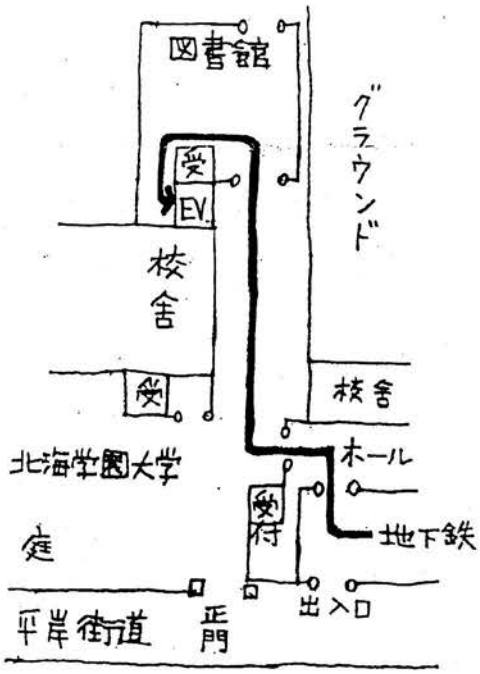
［場所］北海学園国際会議場

ポーレ二十四号にのせた記事「絵の運命-白テンをもつ婦人像」にまつわる話を中心に、ダヴィンチの作品について興味尽きないお話が聞けます。

国際会議場は図書館６階です

所在地　豊平区旭町4-1-40
北海学園大学内
(011)841-1161（代）

地下鉄東豊線「学園前駅」下車



会場への順路図

北海道ポーランド文化協会

第２６回例会

ポーランド料理を楽しむ会

献立

・ビゴス

・スペサムカ（ビスケットを使ったお菓子）

・ライ麦パン

日時：１９９５年１２月２日（土）午前１０時から午後２時まで

場所：札幌市女性センター料理実習室

中央区大通り西１９丁目、電話：（代表）621-5177

講師：熊倉ハリーナさん

定員：４０名（先着順）。男性も歓迎します。ふるってご参加下さい。

費用：１３００円　（材料代）

申込み締切：１１月２５日

申込み受付：小林暁子（８３１－８５７０）

斎田道子（６２１－１７３８）

世話人代表：斎田 道子

ビゴスについて一言：

ビゴスはポーランド風の“ごった煮”だと思います。街の大衆食堂や屋台（？）のようなところで、他の客と一緒に、立ったままで熱いところをフウフウいいながら食べると、すっかりポーランド人になったような気持ちがします。もちろん、ポーランドの素晴しいウオッカとよく合います。ただし、ちゃんとしたレストランではお目にかかったことがないので、おそらく純粋な家庭料理なのでしょう。その秘密のレセピーをハリーナさんが伝授して下さるということで楽しみにしています。（小笠原）

総会開かれる

本協会の一九九五年度総会が、去る十月十一日午後六時三十分よりすみれホテルで開かれました。前年度の事業および予算などを審議（詳細は別に報告）、左のように新年度の役員などを決定したあと、ピアノ演奏などを交えて懇親会が行われました。

会長　谷本 一之
副会長　遠藤 道子
顧問　今村 成和
運営委員　安藤 厚
市川 恒樹
薄井 豊美
小林 暁子
國田 裕作
斎田 道子
佐々木 保子
霜田 千代麿
高岡 美保
中島 洋
灰谷 慶三
長谷川 洋行
長谷川 崇明
本間 富雄
安田 誠子
吉野 悦雄
渡辺 卓
監査委員　富山 信夫
吉田 宏
事務局長　小笠原 正明

ポ文協 修学旅行記

ポ文協では九月三十日、十月一日の一泊二日で池田町へ修学旅行をしました。以下は、参加した方二名の旅行記です。

三十日の「まきばの家」での交流会には、地元の方も参加して下さり、ポーランド旅行の話などに花が咲きました。そして、その場で北海道ポーランド文化協会の会員になって下さるというれしいことがあったこともご報告します。

私のある日の「十勝日誌」

粟原朋友子

私は主人の転勤にともない北海道で生活をするようになり三年が経過しました。これまで幾度となく道東旅行をしたいと思っていたものの、実現しないまま時が流れました。

今回（九月三十日～十月一日）北海道ポーランド文化協会の計画で池田町を訪れることが出来ました。

石勝線・根室本線特急「おおぞら」で三時間十分の列車の中から一行十名の「修学旅行」がはじまりました。北海道ポーランド文化協会会員で池田町在住の藤平隆氏が現地での受け入れの準備をすべてして下さり、池田駅で氏のお出迎えを受けて一行の行動が開始されました。

藤平氏は池田町教育課長で田園ホール館長をなさっています。一行はまず最初に田園ホールを見学しました。文化活動の施設として平成二年に完成したこのホールは多目的ホールで六百人が収容できるといわれ、二百六十席の電動可動式階段席があるのが特徴で、ピアノはベーゼンドルファーインペリアルであり、この他にチェンバロまで備えているという大変立派なホールでした。ホール内には会議室・三十畳の和室・研修室があります。もっともうらやましく思いましたことは、札幌ではポーランド料理講習会を計画した場合でも、調理室で頭を悩まされ、その設備のある会場がふさがっていると計画も進められませんのに、このホールの中に大きな調理室（八十一平方メートル）があり、鏡がもうけられていて、後ろの席の人にも料理の先生の手元が写し出されるようになっていました。池田町の人口は一万人にもならないことをきき、のどかな十勝平野の中に、こんなに恵まれた文化施設のあることに驚きに似た感動を覚えました。

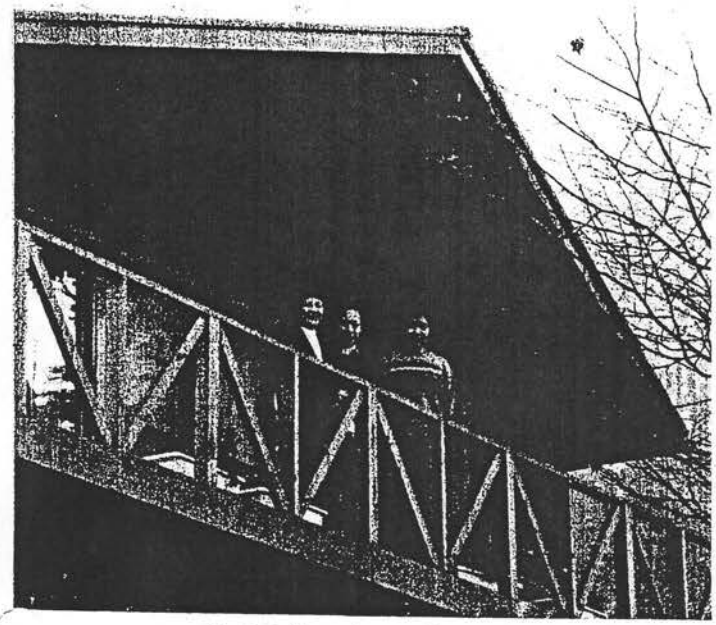
十勝は道内屈指の穀倉地帯として有名であると旅の本で読みました。車窓からながめる景色は他で見られない素晴らしいものとして私の目に焼きつきました。

池田町は歩道までワインカラーで色どられ、タクシーまでも「ワイン・タクシー」で、町をあげてワインの普及に力を入れていることが感じられました。

ヨーロッパの城塞をかたどったワイン城は同町のシンボルとなり、この城がヨーロッパの中

ワイン城で

世の古城に似ているところから「ワイン城」の愛称で呼ばれ親しまれている話をきいた後、一行はワインの製造過程を見学、地下の貯蔵庫まで特別にみせていただき、三階に上って売店で早速「セイオロサム」(凋寒)を飲んでみたが、おいしかった。モリオ・マスカット種を主原料として数種類のブドウからつくられ、バランスのとれた辛口のワインを池田町に来ることができた感激とともに味わいました。



まきばの家「ポニー」

池田の歴史によると、明治三十九年に凋寒村となり、大正十五年池田町と改称されたと記されブドウ栽培を始めたのは昭和三十六年頃とのこと。十月第一日曜日は秋のワイン祭りとして町の主たる行事の一つとなっている。

このワイン祭りに前夜祭から参加できた幸せを忘れることができない。

まきばの家・ワインまつり

大種田りえ子

「池田町はとてもいい所ですよ。是非遊びにいらっしゃい。」「わぁー行きたいですね。」それが昨年ポーランド旅行から帰国して、池田町から参加された藤平さんとの別れぎわの会話でしたが、一年後の九月三十日一行十人で池田町を訪問することになりました。出迎えて下さった藤平さんの案内で、先ず田園ホールを見学。ブドウをかたどったシンボルマークが「さすが池田町」と印象深かったです。次にＪＲからも見えた、古城を思わせるワイン城を見学。普通の観光客は入れないようなワインの貯蔵庫なども見学させてもらえました。そしてその後、宿泊先である『牧場の家』というロッジへ。このロッジが、食器あり、ハロゲンヒーターのキッチンとお鍋あり、更にきれいなお風呂まであり、という素晴しい所でした。この日の晩はワイン祭の前夜祭に参加し、ロッジに戻って交流会をしました。翌日は池田町の目玉行事でもあるワイン祭へ。たいへんな人の数でしたが、名物の牛の丸焼きやワインをお腹いっぱい飲んだり食べたり、おいしい空気を胸一杯吸いました。

この旅行では藤平さんに大変お世話になり、感謝感激です。秋晴れに恵まれた素晴しい池田町を、名残り惜しい気持ちで後にしました。

「ポーレ」編集委員会
小笠原正明・斎田道子
佐々木保子・安田誠子
〔連絡先〕621-1738（斎田）

POLE 第 32 号（1995.11.9）目次

〈第 25[24]回例会〉美術講演会「ポーランド・クラクフのチャルトリスキ美術館とレオナルド・ダ・ヴィンチの作品について」（國田祐作、1995.11.25）のお知らせ…… 1
〈第 26[25]回例会〉「ポーランド料理を楽しむ会」（熊倉ハリーナ、1995.12.2）のお知らせ、第 9 回総会（1995.10.11）報告…… 2
ポ文協修学旅行（1995.9.30～10.1）記・栗原朋友子「私のある日の十勝日誌」…… 3
大和田りえ子「まきばの家・ワインまつり」…… 4